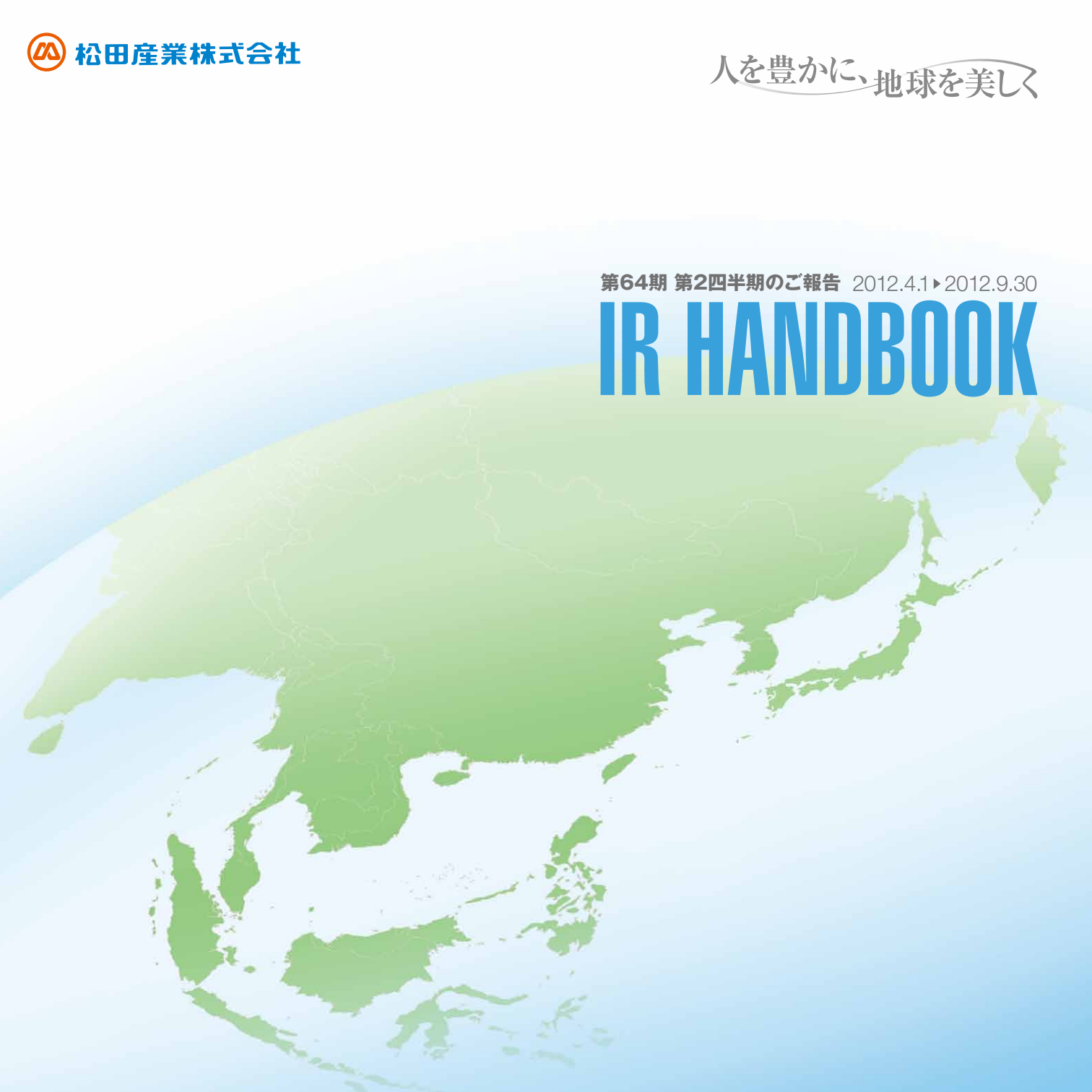


第64期 第2四半期のご報告 2012.4.1▶2012.9.30

# IR HANDBOOK



## 新たな成長に向けて、 着実に体制を強化してまいります。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに、当社の2013年3月期第2四半期（2012年4月1日～9月30日）のIR HANDBOOKをお届けいたします。本誌を通じて、当社に対するご理解を深めていただければ幸いに存じます。

※詳細な財務情報は、当社ホームページでご覧頂けます。

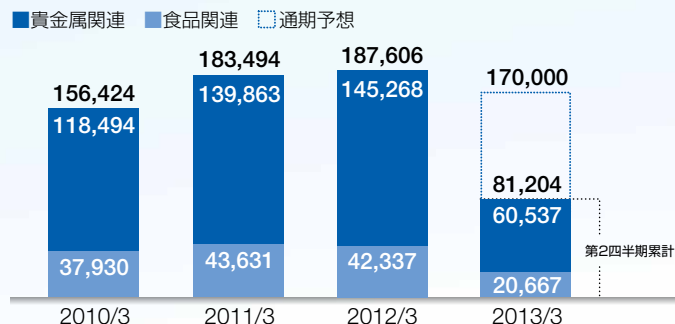


### 当第2四半期の業績と配当につきまして

主力顧客である半導体・電子部品業界におきましては、欧州金融危機に加えて中国などの景気減速を背景に生産が落ち込みました。この影響により、当社グループは貴金属原材料の回収が伸び悩み、貴金属地金の販売が減少したことなどから、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は812億4百万円（前年同期比16.7%減）となりました。このような売上高の減少に伴い、営業利益は18億8百万円（同54.6%減）、経常利益は20億6百万円（同49.6%減）、四半期純利益は13億32百万円（同45.9%減）となりました。また、2013年3月期通期の見通しは、誠に遺憾ながら当初の予想を見直し、売上高1,700億円、営業利益42億円、

### 売上高

[百万円]



経常利益45億円、当期純利益27億60百万円を計画しております。なお、当第2四半期末の配当金につきましては、予定通り1株当たり12円といたしました。2013年3月期の期末配当も12円とし、年間配当金は前期と同額の24円とする予定です。

## 海外展開の強化に向けて

当社グループは、中期的な目標として「東アジアNo.1リファイナー」を掲げ、グローバルな部品供給地として重要性の増す東アジア地域において、生産・販売拠点を拡充し、営業圏の拡大や、現地企業も含めた取引先の拡大を通じて、取扱量の増加を図ってまいります。

タイの現地法人においては、昨年発生した洪水被害から立ち直り、順調に稼働しております。今後のリスクに対してもさまざまなケースを想定した対策を進めております。また、食品関連事業においては中国の青島に現地法人を設立いたしました。現地での調達や品質保証の機能強化を図るとともに、中国市場への販売強化も視野に入れた業容の拡大に努めてまいります。今後新しい時代のニーズに積極的に取り組み、全社一丸となつて着実に新たな成長に向けた体制作りを実行してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも何卒一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 松田 芳明

## 営業利益／経常利益／当期純利益

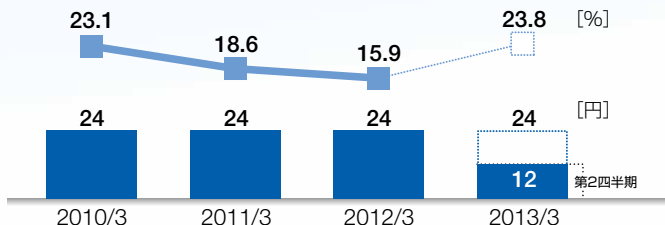
[百万円]



## 1株当たり年間配当／配当性向

■ 1株当たり年間配当 ■ 配当性向 □ 通期予想

\*配当性向は連結決算ベース。破線は通期(年間)予想



# 事業セグメント別情報

## 貴金属関連事業

### ビジネスモデル(貴金属関連事業の仕組み)

**貴金属事業** 国内外のメーカーの工場などから貴金属を含有するスペックアウト品\*を回収し、創業以来約70年にわたって蓄積された技術・ノウハウをもって金・銀・プラチナ・パラジウムなどを製錬・精製し、地金や、薄膜形成材料、化成品などを製造・販売しています。海外展開や回収対象業界の拡大、販売製品の充実に積極的に取り組んでいます。

※検査によって規格外となった部品など



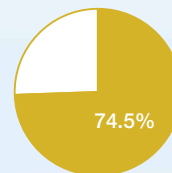
**環境事業** 写真感光材料からの銀のリサイクルや、廃酸・廃アルカリの無害化中間処理を行っています。全国を網羅する収集運搬ネットワークを駆使し、多様なニーズに対応。PCB(ポリ塩化ビフェニル)廃棄物の収集・運搬も実施しています。



## 事業の概況

### 2013年3月期第2四半期(累計)の概況

貴金属部門では、タイの洪水被害からの立ち直りはみられたものの、主力顧客である半導体・電子部品業界の生産が落ち込み、これを受けて当社グループの貴金属化成品などの販売量は減少しました。また、貴金属原材料回収も前年同期を下回り、地金の販売量が減少したため、貴金属部門の売上高は前年同期に比べ減少しました。環境部門においても、震災により一時的に排出量が増加した前年同期に比べ取扱量が減少し、また、銀価格の下落による影響もあり、売上高は前年同期に比べ減少しました。



売上高構成比

### 戦略課題と重点施策

生産・処理能力の強化、新商品開発に向けて、「海外拠点の強化」「国内拠点の整備」「製品・技術の開発」を戦略課題として取り組んでいます。

#### 海外拠点の強化

東アジアでの販売・回収網の充実

#### 国内拠点の整備

入間地区設備更新・能力増強、効率化

#### 製品・技術の開発

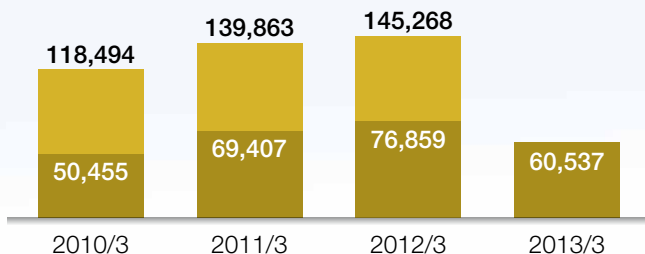
リサイクル・製造技術の向上  
新商品の開発

### 売上高

60,537百万円(前年同期比21.2%減)

■ 通期 ■ 第2四半期累計

[百万円]

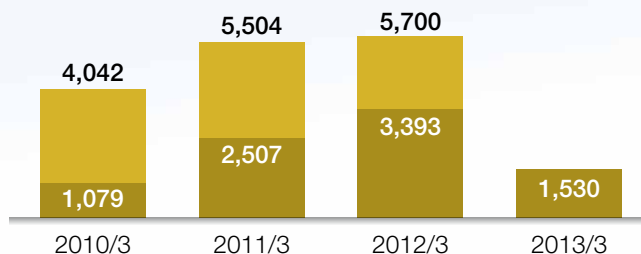


### 営業利益

1,530百万円(前年同期比54.9%減)

■ 通期 ■ 第2四半期累計

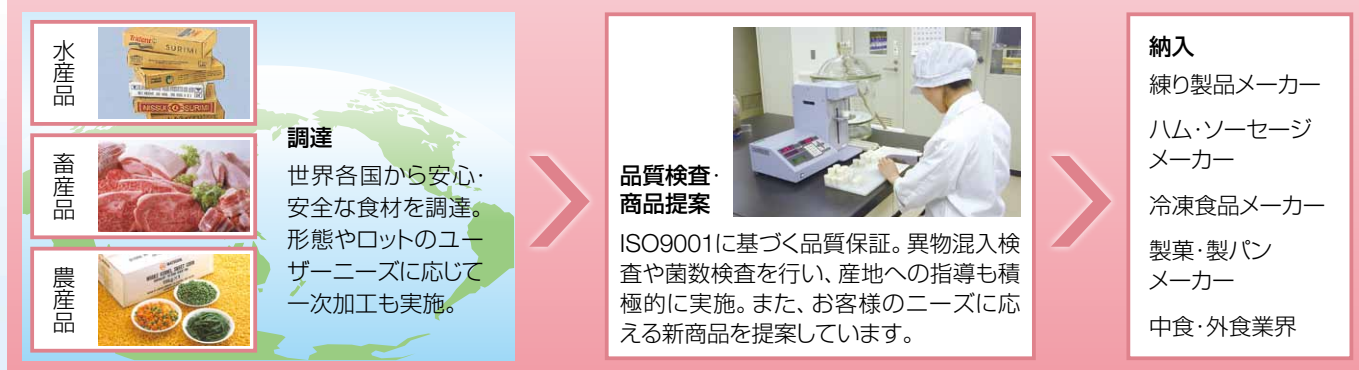
[百万円]



# 事業セグメント別情報

## 食品関連事業

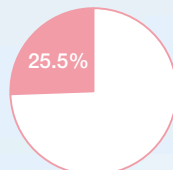
### ビジネスモデル(食品関連事業の仕組み)



### 事業の概況

#### 2013年3月期第2四半期(累計)の概況

デフレ状況下で消費者の低価格志向が固定化し厳しい事業環境が続きました。水産品は販売量が増加し、売上高が前年同期と同水準となったものの、市況の影響などにより損益が悪化しました。畜産品は単価が下落し販売量も伸び悩んだため売上高が減少し、農産品も販売量が前年同期を下回ったため売上高が減少しました。



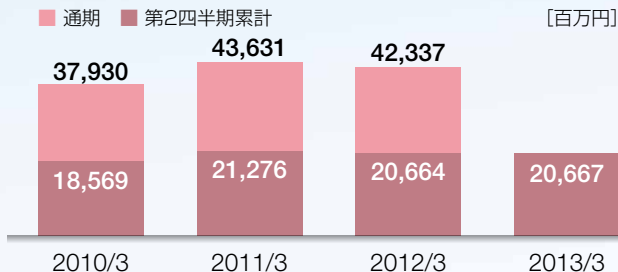
売上高構成比

#### 戦略課題と重点施策

安心・安全な商品の安定供給に向け、さらなる品質管理の徹底、トレーサビリティの強化を図っていきます。販売拡大に向けては、業務用食品原料において、仕入先との関係強化、新規商材・新産地の開拓に取り組むとともに、業容の多様化に合わせ海外拠点を強化していきます。

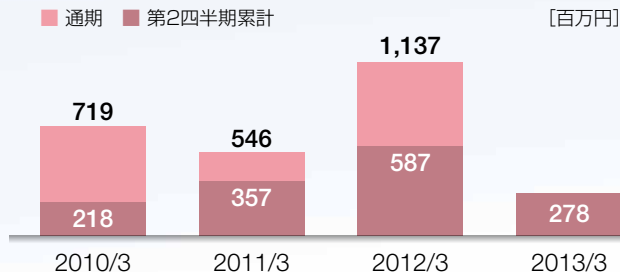
#### 売上高

**20,667**百万円(前年同期と同水準)



#### 営業利益

**278**百万円(前年同期比52.6%減)



# ポテト

私たちの健康な食生活を支える野菜は、生野菜としてだけでなく、惣菜や冷凍食品、レトルト食品、粉状スープ、製菓など、さまざまな食品に使われています。当社では、世界各国から野菜を輸入し、加工食品メーカーや外食産業へ販売していますが、今回は主力商品のひとつであるポテトについてご紹介します。

## Q1

ポテトの市場規模と松田産業での取り扱いについて教えてください

世界におけるポテトの生産量は年間3億2,000万トン、このうち日本は230万トン(2010年)となっています。また、日本は冷凍フレンチフライを36万トン、乾燥ポテトを2万トン輸入しています。当社では、業務用の「冷凍ポテト」「乾燥ポテト」「生鮮ポテト」を米国などから輸入し、加工食品メーカーなどに販売しています。年間取扱量はおよそ冷凍ポテトが5,000トン、乾燥ポテトが3,000トン、生鮮ポテトが3,000トンです。

## Q2

どのような商品に使用されているのでしょうか

冷凍ポテトはスナック、コロッケ、ポテトサラダなど、生鮮ポテトはコロッケ、ポテトサラダなど、乾燥ポテトはスナックなどに使用されています。乾燥ポテトの主な形態には、「フレークス状」「粉状」「顆粒状(グラニュールス)」などがあり、お客様が製造するスナックによって、使用される種類が異なります。当社は長年の取り扱い実績に裏打ちされた調達能力・提案力・価格競争力によってお客様のご要望に最適な商品を提供しています。

サクサク感を出したいとき

フレークス状



商品例



形を整えたいとき

粉状 (LLL<sup>®</sup>)



※LLL<sup>®</sup>:ローリーチライトピール

商品例



カリカリ感を出したいとき

顆粒状 (グラニュールス)



商品例



## Q3

品質管理はどのように行われているのでしょうか

当社では、社内に品質保証室を設置し、徹底した品質管理を行っています。また品質管理専門の営業担当が、調達先での定期的な生育状況の確認や、加工工程の立会い、さらに、仕入先での品質・生産管理者との打合せなどを行います。

入荷時の品質検査では、特に残留農薬と遺伝子組み換えについて細心の注意を払っています。残留農薬については、毎年収穫時期に使用農薬のリストを入手し、日本国内でサンプル検査にかけます。遺伝子組み換えについては、搬入コンテナごと現地と日本で2度検査を行い、安全を確認しています。このように徹底した品質管理の取り組みによってお客様の信頼を得ています。



会社概要		平成24年9月30日現在
商号	松田産業株式会社	
本社所在地	東京都新宿区西新宿1-26-2	
設立年月日	昭和26年6月18日	
資本金	3,559百万円	
従業員数(連結)	935名	
主な事業内容	貴金属回収製錬、貴金属地金・電子材料他の販売、 食品加工原材料の卸売、産業廃棄物の収集・運搬・処理	
会計監査人	新日本有限責任監査法人	

株主メモ	
事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL <a href="http://ir.matsuda-sangyo.co.jp/ja/Top.html">http://ir.matsuda-sangyo.co.jp/ja/Top.html</a> (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 株主優待



### 1 対象株主

毎年3月31日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された、1単元(100株)以上保有の株主様を対象といたします。

### 2 優待の内容

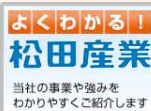
一律2,000円相当の当社オリジナル「QUOカード」を贈呈いたします。

### 3 贈呈の時期

毎年1回、当社定時株主総会終了後の6月下旬発送を予定しております。

## HPのご案内

松田産業



当社の事業や強みをわかりやすくご紹介したコンテンツを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

## 株式情報

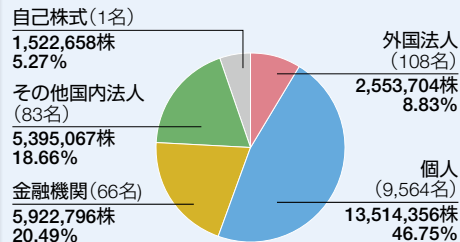
### 株式の状況

平成24年9月30日現在

株式の総数	40,000,000株
発行済株式総数	28,908,581株
株主数	9,822名

### 株式の分布状況

平成24年9月30日現在



## 株価・出来高推移



**松田産業株式会社**

証券コード: 7456

東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル  
TEL 03-5381-0001 (代表)

**UD FONT**  
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。

